

報 道 資 料

平成22年4月6日（火）

件 名 外務省北米局日米地位協定室長の来庁について
概 要 このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

1. 日 時：平成22年4月6日（火） 16時45分～17時20分
2. 場 所：市長応接室
3. 来庁者：外務省北米局日米地位協定室長
鯨 博 行（なまず ひろゆき）
4. 応対者：岩国市長 福 田 良 彦（ふくだ よしひこ）
5. 市長コメント

本日の訪問については、岩国基地への視察を兼ね、私への挨拶と米軍再編及びいわゆる核の密約問題に関する報告が主な内容であった。

鯨室長は来岩は初めてとのことであったので、岩国市や岩国基地の現状について、ご自身の目で現場を見られ、しっかりと状況を把握されたのではないかと思います。

まず、米軍再編については、外務省としても、ロードマップに従って政府の方針どおり進めていく考えであるとのことであった。

核の密約問題については、外務省でまとめられた調査結果に基づき、先般の外務大臣の言葉も引用されながら報告されたが、これまでに報道で伝えられた内容から特に目新しいものはなかった。

岩国基地への核の持ち込みについては、「膨大な資料を点検したが、現時点で岩国への持ち込みについては確認できなかった」とのことであった。なお、「現在については持ち込みがないことははっきり言える」とのことであった。

私は、非核三原則を堅持する我が国において、核密約があったということは極めて遺憾であること、また、新たな事実が判明した場合にはすみやかに情報提供されるよう申し上げた。

今後も岩国基地への核の持ち込みは論外であり、米軍基地の所在する自治体として、非核三原則を厳正に堅持し、市民に核配備等への疑念や不安を与えてはならないとの考えのもと、これまで以上に大きな関心を持って、政府の動向や米側の情報を注視していく所存であるとお伝えした。

また、日米地位協定の抜本的見直し、騒音対策としての航空機の運用（運用時間の短縮、市街地上空飛行等）の改善、海上自衛隊の残留についても要望した。